調査報告

本調査にもとづく講演資料

調査報告

【本調査にもとづく講演】

テーマ「イマドキの高校生の実態」
日　時　平成24年２月12日（日）　午前９時～午前10時30分
会　場　東京ガーデンパレス　平安の間
講　師　木原　雅子（京都大学大学院医学研究科准教授）
参加者　都道府県市高等学校ＰＴＡ連合会会長及び事務局長（約100名）
　　ほか本会賛助会員・マスコミ関係者（約10名）

講演資料

平成23年度　全国高等学校PTA連合会講演

2012年2月12日（日）

「イマドキの高校生の実態」
～WYSHウイッシュ教育という「やる気スイッチ」～

木原　雅子
京都大学大学院医学研究科社会疫学分野　准教授
一般財団法人　日本こども財団　理事長
日本こども財団ホームページ：http://www.kodomo-zaidan.com/
TEL：075-753-4354　FAX：075-753-4359
E-mail:masako.kihara@kx7.ecs.kyoto-u.ac.jp

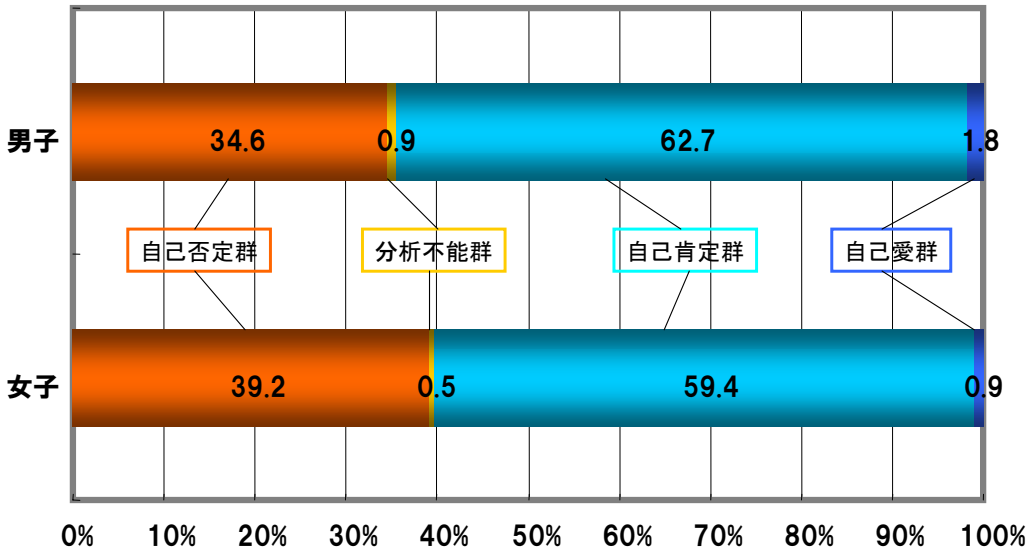
高校生の現状

ー平成23年度高校生全国調査の結果からー

自分に自信を持てない高校生

高校生の自己肯定感の実態（2011年）

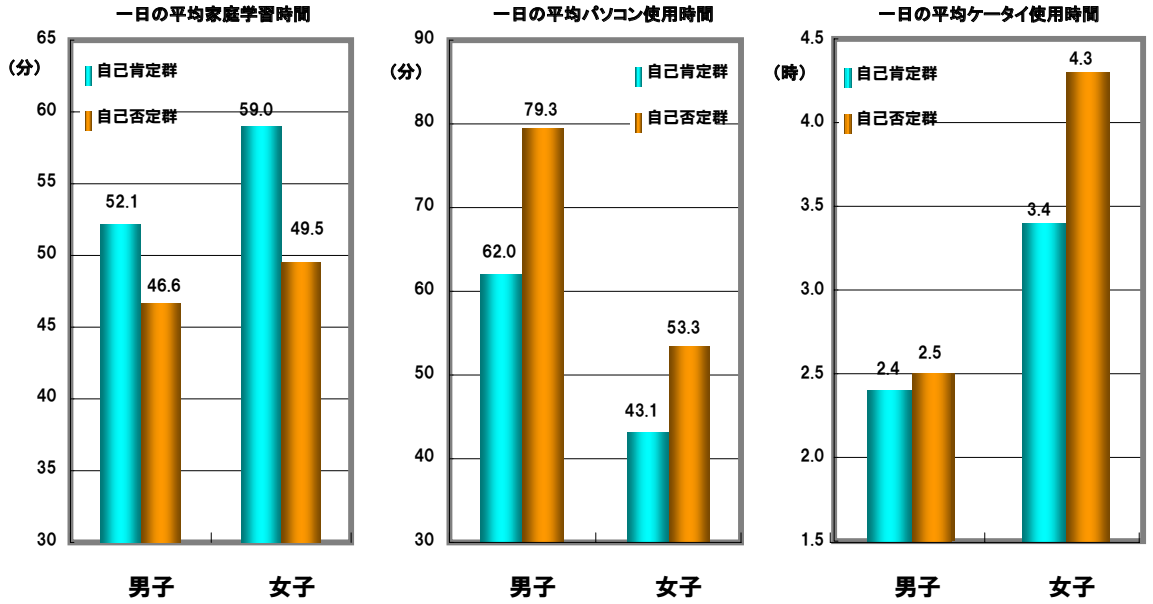
①自己否定群：長所がなく欠点ばかりだと思っている
②自己肯定群：欠点もあるが、長所もたくさんあると思っている
③自己愛群：欠点がなく長所ばかりだと思っている
④分析不能群：欠点があるのか、長所があるのか自己分析できない



生徒総数6,361人（男3,189人、女3,106人）：（全国高校生生活意識調査2011：（社）全国高等学校PTA連合会／木原雅子他）

各種生活時間と自己肯定感の低さとの関係（2011年）

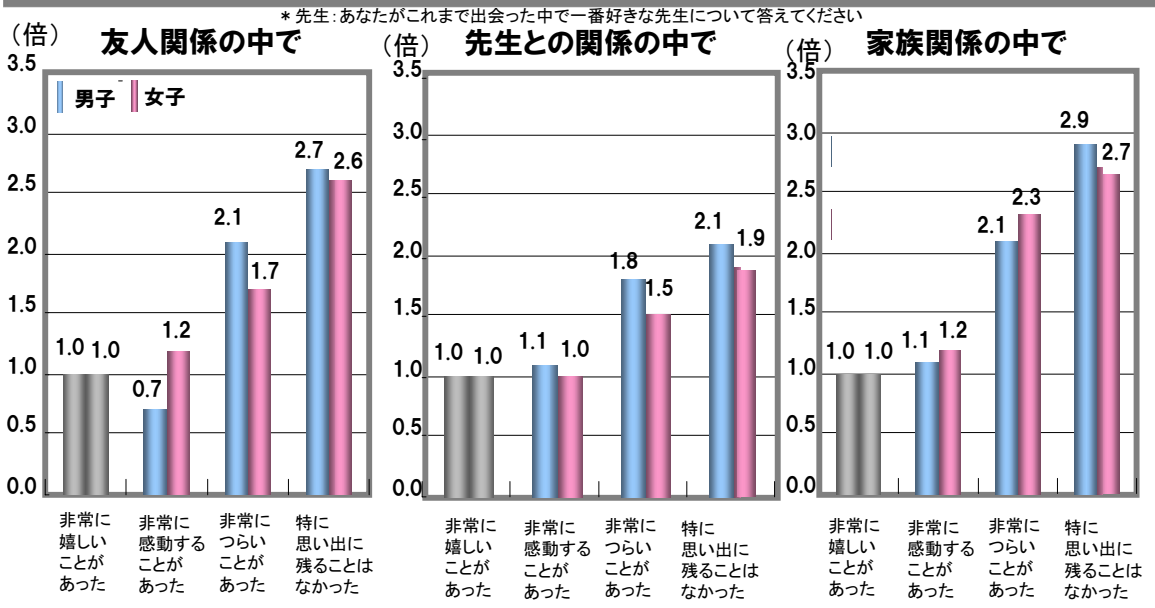
＊自己肯定群と自己否定群で、家庭学習時間、パソコン使用時間、ケータイ使用時間を比較した



生徒総数6,361人（男3,189人、女3,106人）：（全国高校生生活意識調査2011：（社）全国高等学校PTA連合会／木原雅子他）

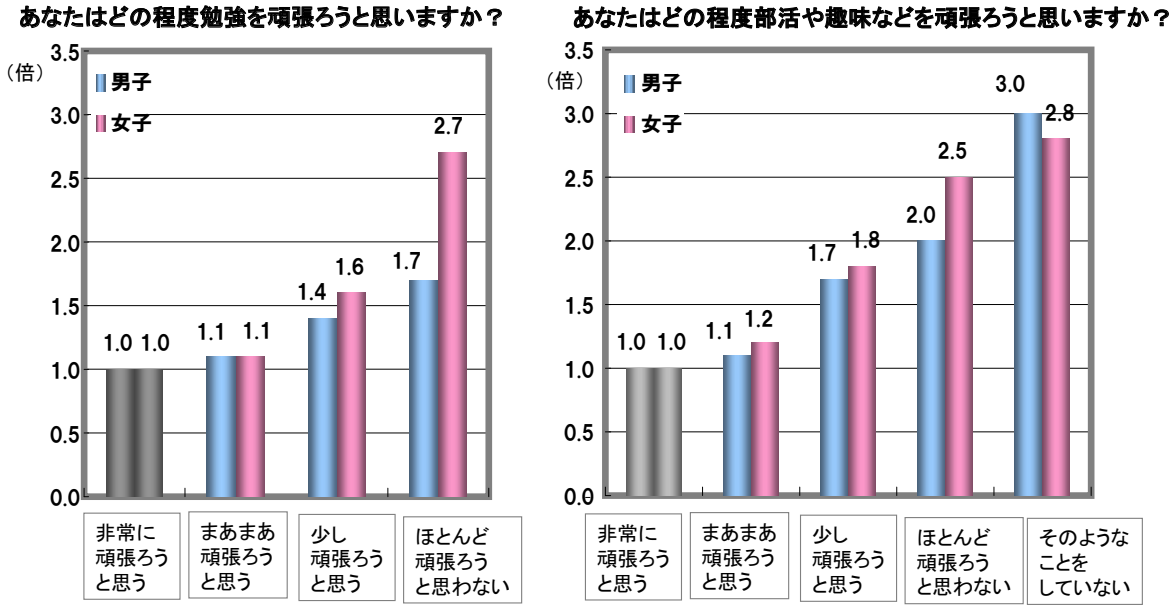
各種出来事と自己肯定感の低さとの関係（2011年）

＊先生：あなたがこれまで出会った中で一番好きな先生について答えてください



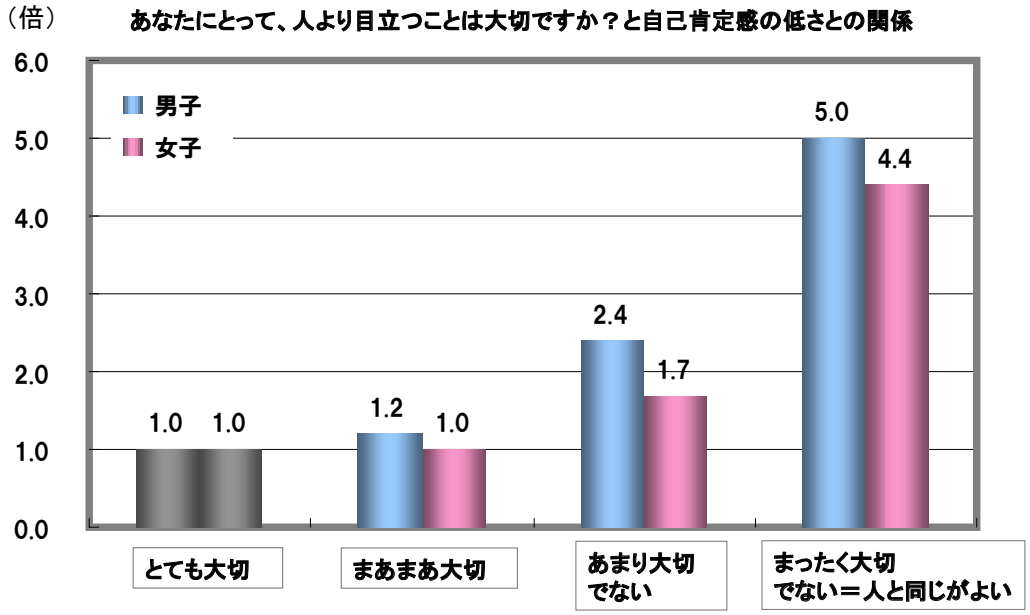
生徒総数6,361人（男3,189人、女3,106人）：（全国高校生生活意識調査2011：（社）全国高等学校PTA連合会／木原雅子他）

活動意欲・学習意欲と自己肯定感の低さとの関係（2011年）



生徒総数6,361人（男3,189人、女3,106人）：（全国高校生生活意識調査2011：（社）全国高等学校PTA連合会／木原雅子他）

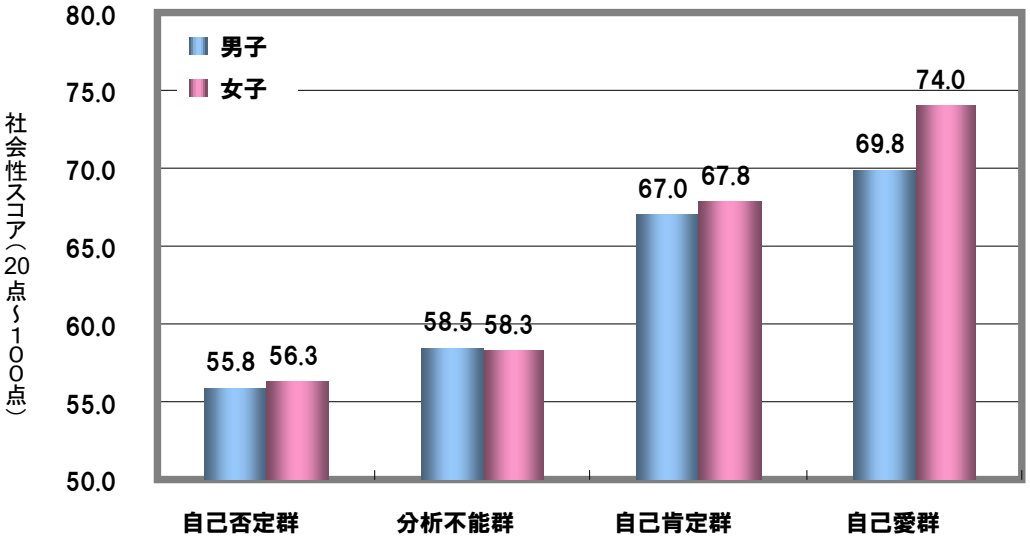
目立つことと自己肯定感の低さとの関係（2011年）



生徒総数6,361人（男3,189人、女3,106人）：（全国高校生生活意識調査2011：（社）全国高等学校PTA連合会／木原雅子他）

社会性と自己肯定感との関係（2011年）

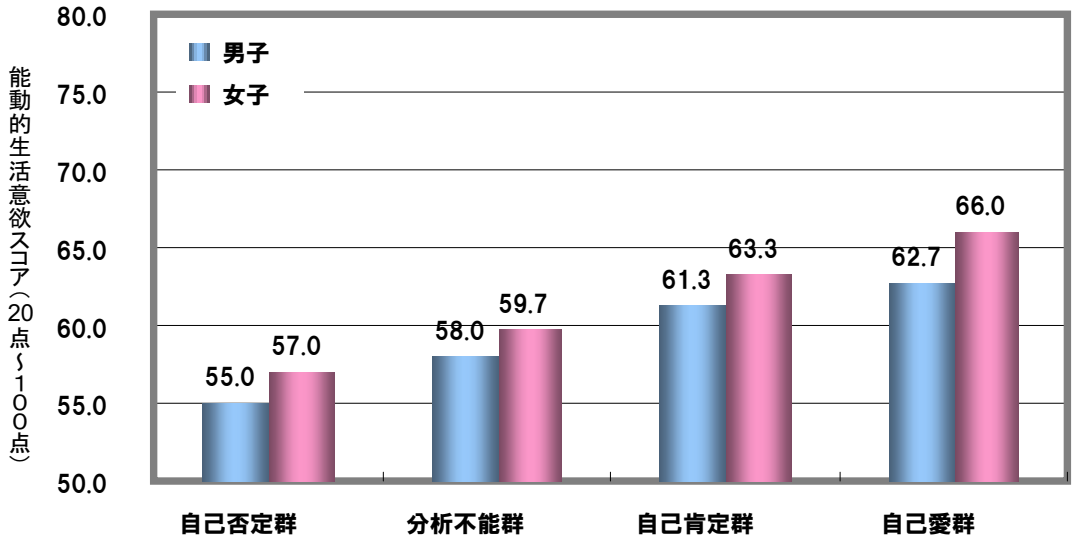
＊社会性を測定するために8つの質問をし、各質問の回答を点数化して20-100点の社会性スコアとした。
点数が低いほど社会性が低い（コミュニケーション力が低く、引きこもり傾向）ことを意味する



生徒総数6,361人（男3,189人、女3,106人）：（全国高校生生活意識調査2011：（社）全国高等学校PTA連合会／木原雅子他）

能動的生活意欲と自己肯定感との関係（2011年）

＊能動的生活意欲を測定するために6つの質問をし、各質問の回答を点数化して20-100点の能動的生活意欲スコアとした。点数が低いほど能動的生活意欲が低い（自発的意欲が少なく、指示待ち傾向）ことを意味する

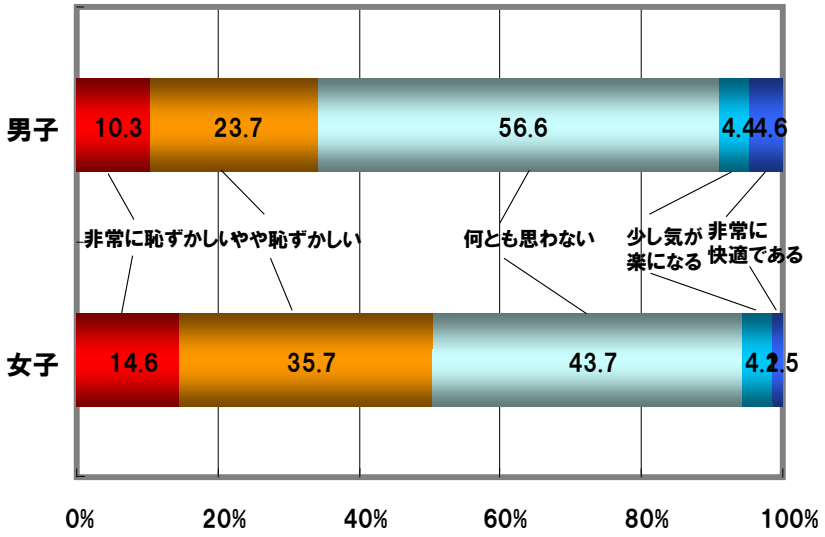


生徒総数6,361人（男3,189人、女3,106人）：（全国高校生生活意識調査2011：（社）全国高等学校PTA連合会／木原雅子他）

友だちとの関係

「友人と一緒でなく一人でいることに対する意識」（2011年）

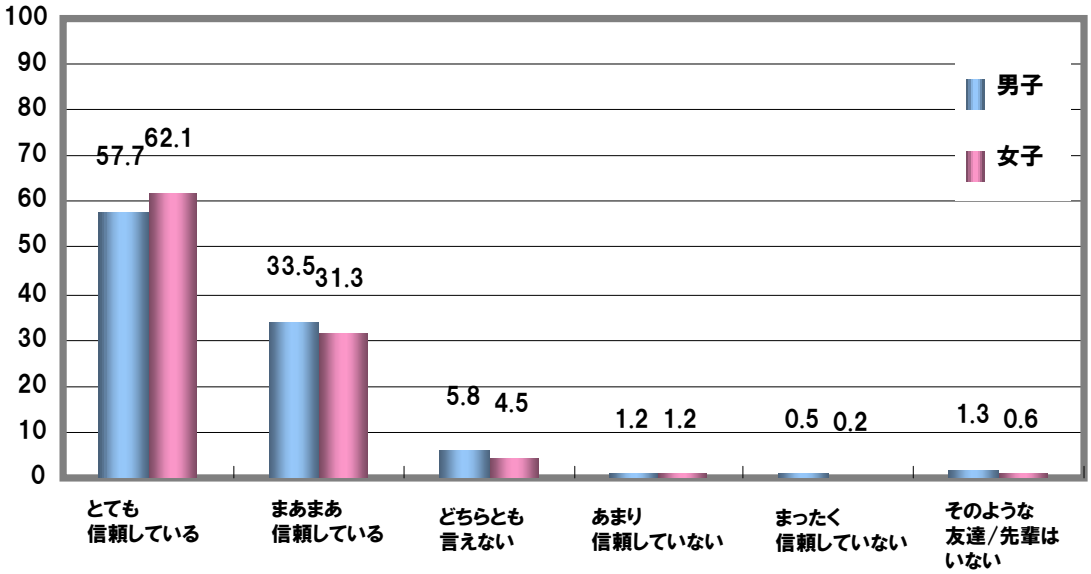
昼食時間など、友だちと一緒でなく一人でいることをどう思いますか？



生徒総数6,361人（男3,189人、女3,106人）：（全国高校生生活意識調査2011：（社）全国高等学校PTA連合会／木原雅子他）

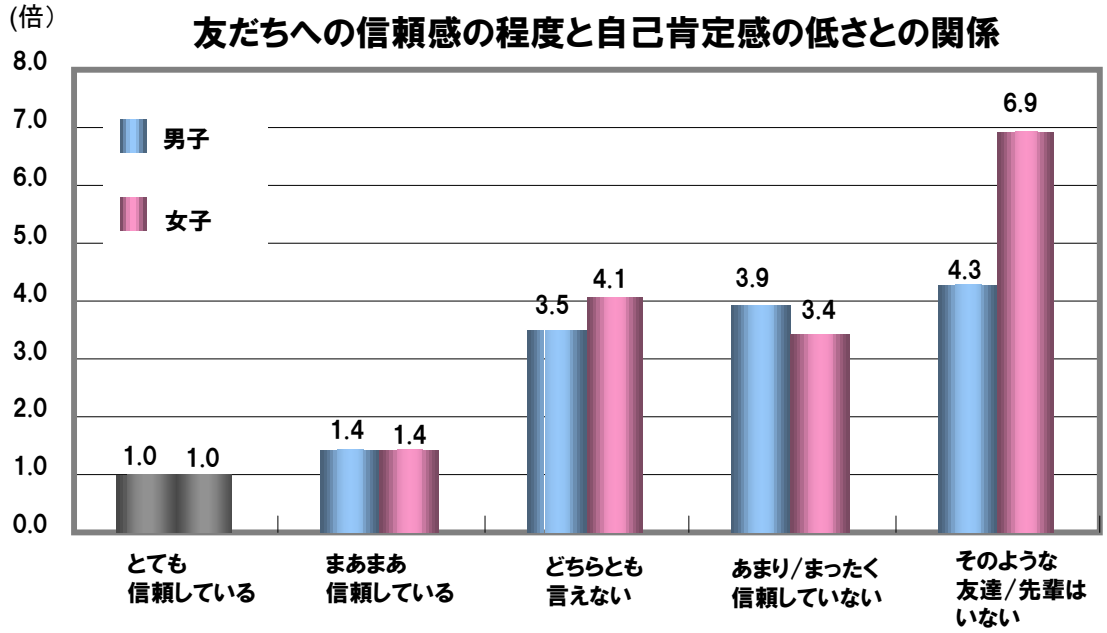
友人（親友）への信頼感（2011年）

一番親しい友だち、先輩を信頼していますか？



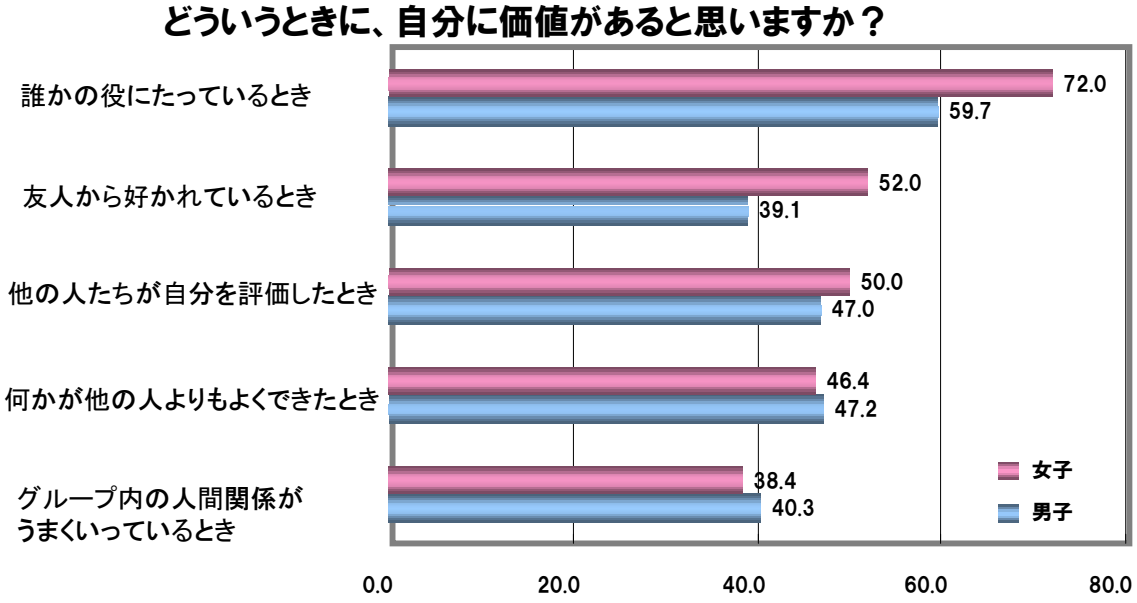
生徒総数6,361人（男3,189人、女3,106人）：（全国高校生生活意識調査2011：（社）全国高等学校PTA連合会／木原雅子他）

自己肯定感と友人（親友）への信頼感（2011年）



生徒総数6,361人（男3,189人、女3,106人）：（全国高校生生活意識調査2011：（社）全国高等学校PTA連合会／木原雅子他）

高校生の自己価値観（2011年）

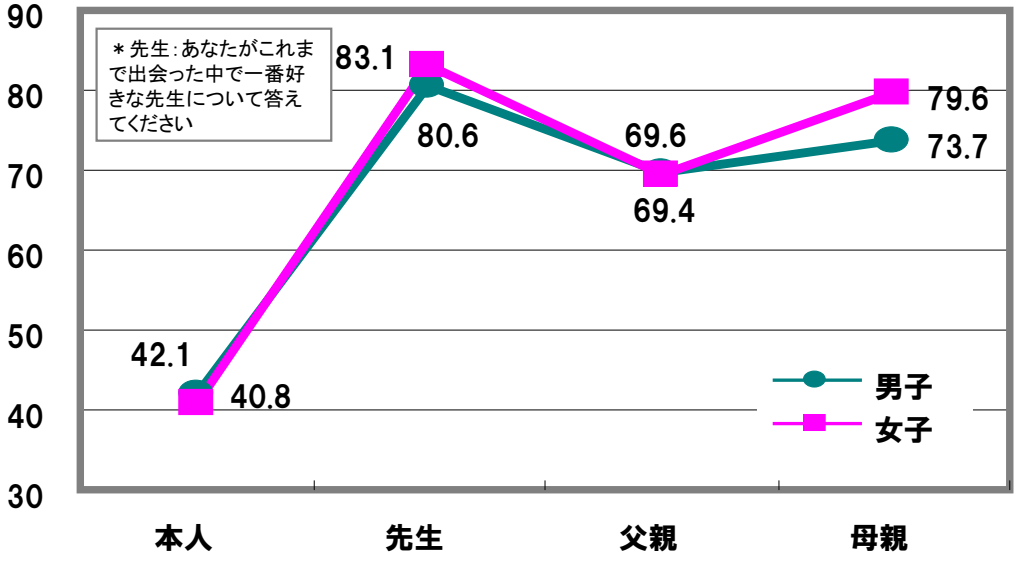


生徒総数6,361人（男3,189人、女3,106人）：（全国高校生生活意識調査2011：（社）全国高等学校PTA連合会／木原雅子他）

周囲の大人との関係

本人、先生、父親、母親の人間度比較（2011年）

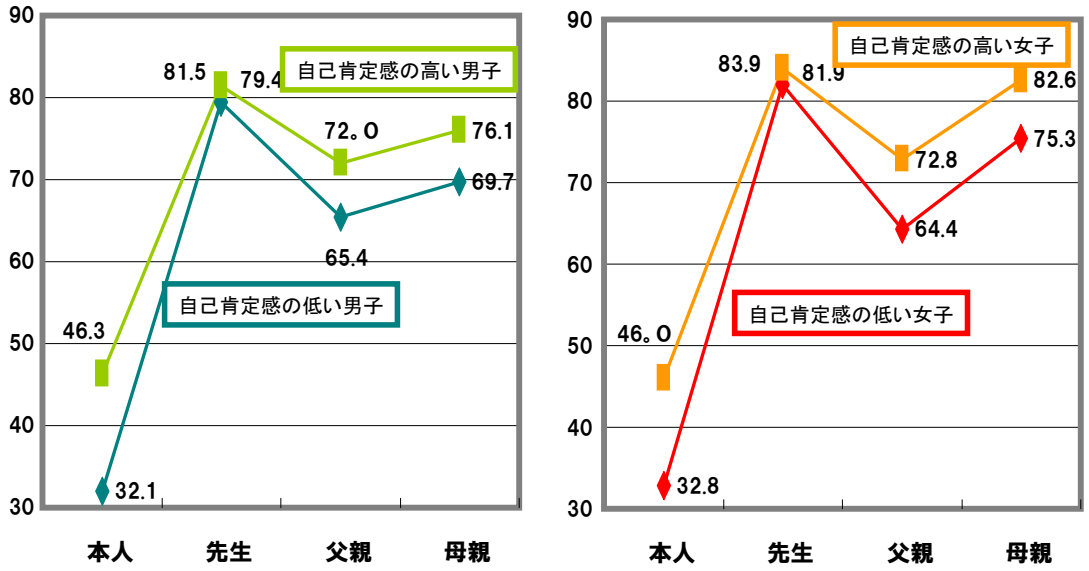
＊人間度の定義：あなたが世の中で一番尊敬している人が100度となります。



生徒総数6,361人（男3,189人、女3,106人）：（全国高校生生活意識調査2011：（社）全国高等学校PTA連合会／木原雅子他）

自己肯定感と各種人間度との関係（2011年）

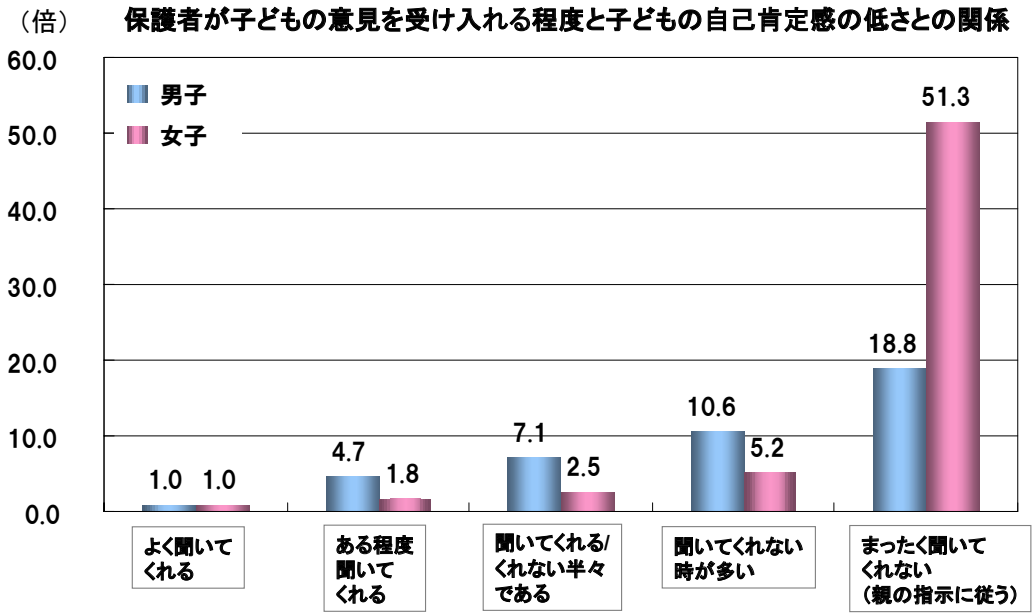
＊人間度：あなたが世の中で一番尊敬している人が100度となります。
＊先生：あなたがこれまで出会った中で一番好きな先生について答えてください



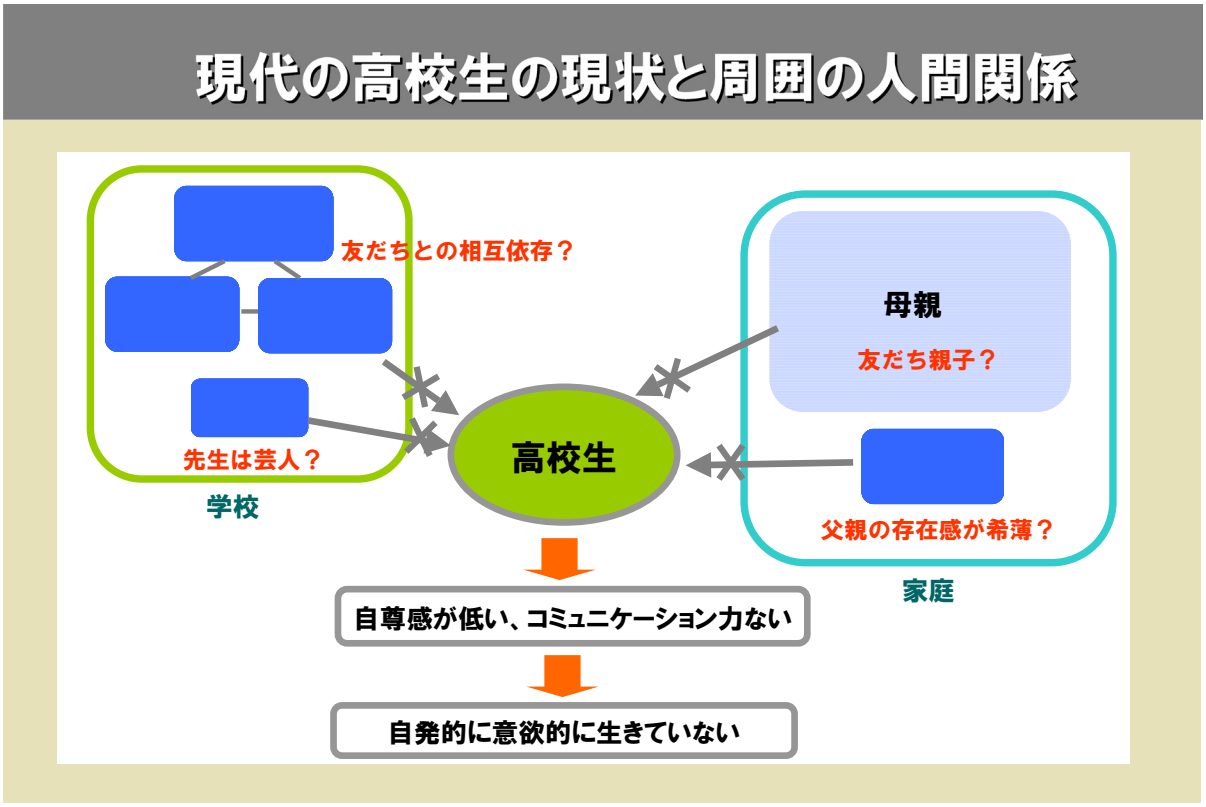
生徒総数6,361人（男3,189人、女3,106人）：（全国高校生生活意識調査2011：（社）全国高等学校PTA連合会／木原雅子他）

親子関係と自己肯定感の低さとの関係（2011年）

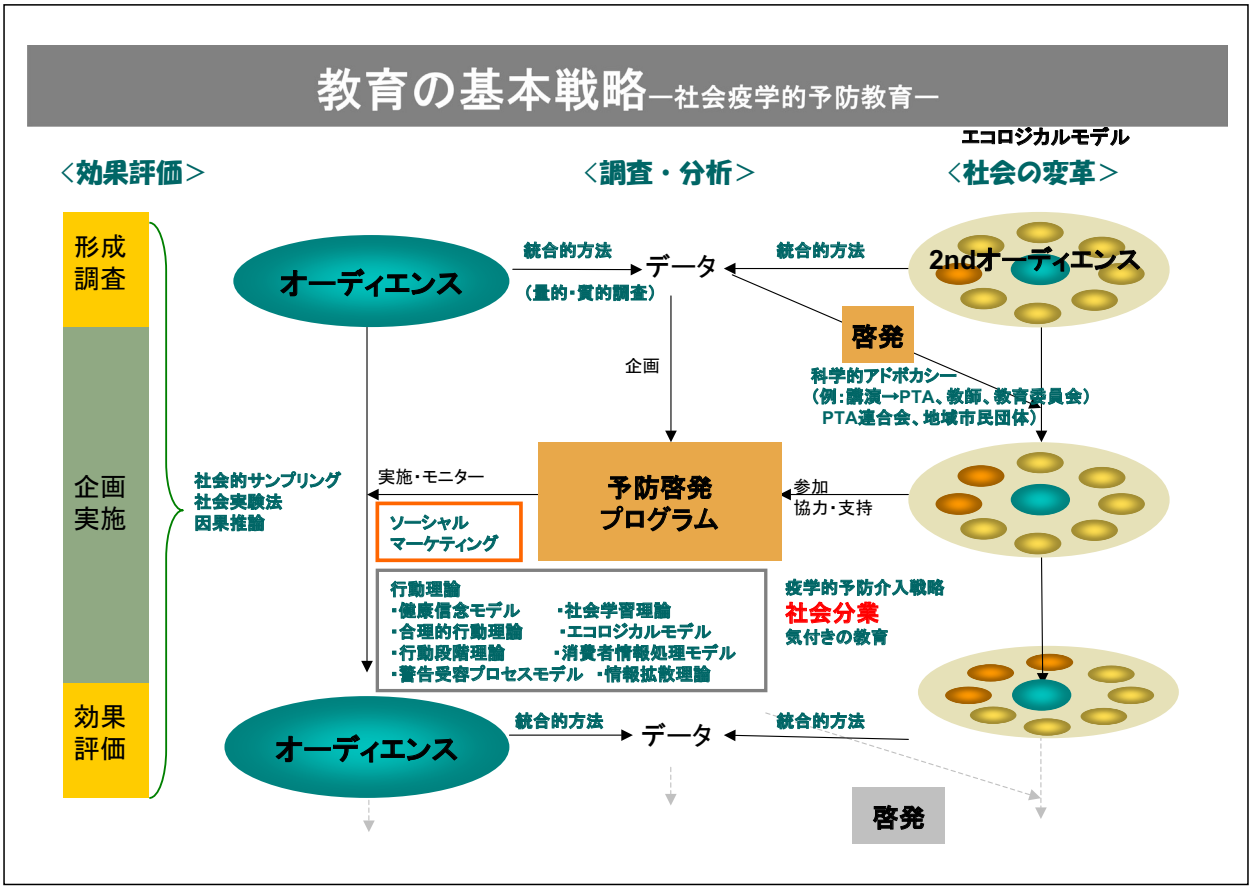
保護者が子どもの意見をどの程度受け入れるか

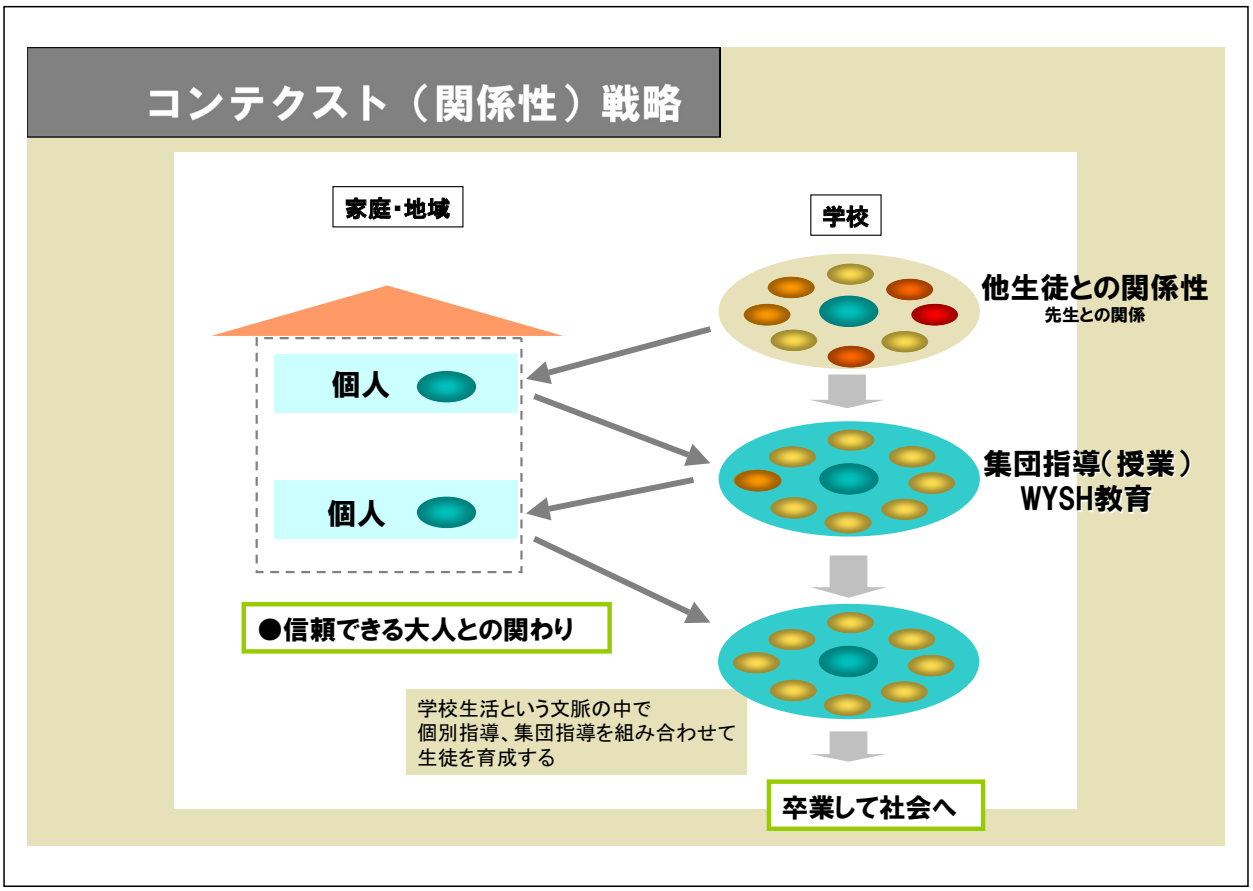


生徒総数6,361人（男3,189人、女3,106人）：（全国高校生生活意識調査2011：（社）全国高等学校PTA連合会／木原雅子他）


現代の高校生の現状と周囲の人間関係
友だちとの相互依存？
先生は芸人？
学校
高校生
母親
友だち親子？
父親の存在感が希薄？
家庭
自尊感が低い、コミュニケーション力ない
自発的に意欲的に生きていない

ＷＹＳＨ教育の概要
Well-being of Youth in Social Happiness


教育の基本戦略—社会疫学的予防教育—
エコロジカルモデル
〈効果評価〉
〈調査・分析〉
〈社会の変革〉
形成調査
企画実施
効果評価
オーディエンス
統合的方法
データ
（量的・質的調査）
統合的方法
2ndオーディエンス
啓発
企画
科学的アドボカシー
（例：講演→PTA、教師、教育委員会）
PTA連合会、地域市民団体）
社会的サンプリング
社会実験法
因果推論
実施・モニター
予防啓発
プログラム
参加
協力・支持
ソーシャル
マーケティング
行動理論
・健康信念モデル
・社会学習理論
・合理的行動理論
・エコロジカルモデル
・行動段階理論
・消費者情報処理モデル
・警告受容プロセスモデル
・情報拡散理論
疫学的予防介入戦略
社会分業
気付きの教育
オーディエンス
統合的方法
データ
統合的方法
啓発


コンテクスト（関係性）戦略
家庭・地域
学校
他生徒との関係性
先生との関係
個人
個人
集団指導（授業）
WYSH教育
●信頼できる大人との関わり
学校生活という文脈の中で
個別指導、集団指導を組み合わせて
生徒を育成する
卒業して社会へ

WYSH教育の最終ゴール

（狭義の目標）

- 危険に対処できる子どもを育てる

（広義の目標）

- 将来、すべての子どもが自分の長所をのばし、幸せに生活する。

WYSH教育の基本戦略

1 第一段階　<安心できる人間関係：居場所作り>

- 関係作り：信頼できる穏やかな人間関係を作る

2 第二段階　<自尊感：役割意識>

- 自分を知る：各子どもが、自分の長所を見つけること

人間基礎教育

3 第三段階　（危険を伝える）

- 危機管理：現代社会の各種危険を伝える

4 第四段階　（気づきの教育：問題対処、目標設定）

- 自立準備；自分で考え、自分で気づき、自分で決める

気づきの教育

最後に

様々な角度から見ても、子どもたちは深刻な状況にある。
しかも、子育てが行いやすい状況とはいい難い。
ただ大人の本気のかかわりは、子どもに必ず伝わる。
子どもの未来は、われわれ大人のやる気にかかっている。

↓

小さなことでも、参加者のみなさん一人ひとりができることからはじめてください。
各地域/各学校の子どもたち全員に笑顔があふれることを願っています。

MASAKO KIHARA 2012

あとがき

調査を終えて

社団法人全国高等学校ＰＴＡ連合会
健全育成委員会委員長
岡　薗　正　浩

全国高等学校ＰＴＡ連合会では、過去５年間高校生の実態調査を行ってきました。今回は、日本財団の助成のもと「高校生の育成環境改善のための継続的実態調査事業」として、全国6,361人の生徒の協力をいただき生活意識に関する調査を実施することができました。調査結果では、学校生活の現状、人間関係などにおいて、友人・先生・家族間・地域などにおける各種のリスクなど、多岐多様に分析してあります。2011年３月11日、この日を境に人間関係にどのような変化が起きたでしょうか。これから命を守る大切さ、子ども、地域、家族、学校など様々なテーマで論議されると思います。子どもたちを取り巻く問題は、日々進化をとげ、大人でもコントロールできない状況になりつつあります。健全育成のために、この報告書が、悩み、苦しんでいる子どもたちの一助になるよう様々な場面で活用されることを願っております。

本年度の当調査にあたり、日本財団、京都大学をはじめとする研究者の皆様、多方面よりご協力をいただきましたことを感謝申し上げます。

最後に、協力者委員会の皆様、健全育成委員会のメンバーの皆様のご協力によりすばらしい研究調査ができましたことにあらためて御礼を申し上げます。ありがとうございました。

平成24年３月